

# 2026年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース			教科担任	
外国語	論理・表現 I	2	1 年次			工藤慶文・小澤あづさ・吉村由紀・河村昌子	
使用教科書	Genius Logic and Expression I (大修館)		使用副教材	Genius English Logic and Expression I グラマー・ノート (大修館) Genius ジーニアス総合英語 第3版 (大修館)			
科目の目標				道徳教育のねらい			
日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、 1 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 2 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 3 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。				1 言語活動による他者との関わりを通じて、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力やコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度を養う。 2 単元の題材を通じて、世の中の様々な事象に関心を持ち、積極的に関わる姿勢を養う。			
学習活動内容		育てたい6つの力 (資質・能力)					
		1	2	3	4	5	6
		主体的学習力	基礎力	思考・分析力	発信・表現力	自他認知・協働力	計画実行力
1	授業 (文法・学び合い)	○	○	○	○	○	
2	授業 (ペア活動・グループ活動)	○	○	○	○	○	
3	パフォーマンステスト (スピーキング)			○	○		
4	パフォーマンステスト (ライティング)		○	○	○		
5	提出物	○					○
6	小テスト	○	○				
7	課題確認テスト	○	○				○
8	定期考査・単元テスト		○	○	○		○
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	[知識] 学習した言語材料の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、一定の支援のもと文章等を書く、または話す技能を身に付けている。(40%程度)		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、一定の支援のもと、日常的または社会的な話題について書く、または話すことができる。 (40%程度)		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら主体的に書く、または話そうとしている。 (20%程度)		
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。						
		授業での取組	課題への取組	実技テスト	小テスト	課題確認テスト	考査・単元テ
	知識・技能	○		○	◎	◎	○
	思考・判断・表現	○		◎	○		◎
主体的に学習に取り組む態度	○	◎	○				

論理・表現 I 授業計画

授 業 計 画				実 施 状 況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前       期	4	Introduction (1) Unit 1 (3) Unit 2 (3)	自己紹介や家族・友人の紹介を することができる。	品詞・文の種類 文型	
	5	Unit 3 (2) Unit 4 (3) Unit 5 (3)	自分の学校について紹介する ことができる。 週末の予定を立てることが できる。 大切なものや経験を伝える こと ができる	時制	
	6	前期中間考査			
	7	Unit 6 (4) Unit 7 (3) Unit 8 (3)	学校のルールを説明し、後輩に アドバイスすることができる。 観光客にお勧め場所を案内 することができる。	助動詞 受動態	
	8	前期期末考査			
	9	Unit 9 (4) Unit 10 (4)	健康問題の解決策について提言 することができる。 進路について意見交換する こと ができる	不定詞	
	10	Unit 11 (4) Unit 12 (4)	日本の学校習慣について述べ たり、学校習慣の賛否について 意見交換することができる。	動名詞 分詞	
	11	Unit 13 (2) Unit 14 (3)	交通手段について意見交換 することができる。 尊敬する人を紹介する こと ができる。	比較表現 関係代名詞	
	12	後期中間考査 Unit 15 (3) Unit 16 (3)	ボランティアや職場体験に ついて報告することができる。 水不足やフードロスについて 意見交換することができる。	関係副詞 仮定法過去	
後    期		Unit 17 (3)	自分に大きな影響を与えた 人やもの、出来事との出会い についてプレゼンテーション を行う こと ができる。	仮定法過去完了	
	1	Unit 18 (3) Unit 19 (4)	環境問題や科学技術について 意見交換をすることができる。	接続詞	
	2	後期期末考査			
	3	Unit 20 (4) まとめの活動	日本文化を紹介する こと ができる  未来に残したいものについて 発表する	名詞構文・無生物主語	